

営農だより 第7号



- 目標**
- ① 「米ぬか入り肥料」の施用により、循環型農業の実践
 - ② 粒張が良く、食味値 80 点以上の良食味米

～中干し以降の水管理で粒張りの良いお米を作ろう。
カメムシ防除を徹底し、品質向上を目指しましょう!!～

今年の6月は1ヵ月通して気温がかなり高く推移しました。梅雨に入ってから降水量は少なく、日照時間は平年を大幅に上回りました。今後も気温が高くなることが予想されています。熱中症に気を付けて作業を行いましょ。

現在の生育状況は11.8葉であり、これは昨年と同程度、またはほ場によっては昨年より早い生育ステージとなっています。6月の好天により生育が促進され、例年と比較し茎数が多く草丈も10cm程度長い傾向となっています。すでに幼穂が確認できるほ場も散見されています(7月1日時点)。今後の天候によって草丈や茎数の生育がさらに促進され、栽培後半に肥料切れを起こすほ場が発生する可能性があります。生育診断を実施し、必要に応じて穂肥の散布を行いましょ。また、間断灌水を徹底して根を活性化させましょ。

稲こうじ病の防除はできましたか?今後の重要な管理として、品質を落とさない為の病害虫防除があります。特にカメムシ防除をしっかりと行いましょ!まずは畦畔の草刈りを出穂10日前までに終わらせ、収穫2週間前まで草刈りを行わないで下さい。その上で、薬剤防除を徹底しましょ。

穂ばらみ期から出穂期にかけては稲体が水分を多く必要とします(詳細は裏面へ)。中干しを行っている方もいるかと思いますが、この時期は土壌水分が不足しないようにして下さい。その後は適切な間断灌水の徹底により稲体を最後まで健全に保ち、登熟を向上させ粒厚の充実した良食味米の収穫を目指しましょ!!

【御殿場の気象】アメダスデータ御殿場

期間	項目	平均気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
		本年	平年	差	本年	平年	%	本年	平年	%
4月	計	12.3	11.5	0.8	172.8	161.3	107.1	165.0	252.6	65.3
5月	計	16.3	15.9	0.4	126.1	158.6	79.5	338.0	243.7	138.7
6月	前半 計	19.3	18.4	0.9	39.7	60.8	65.3	247.0	120.6	204.8
	6月16~20日	24.8	19.4	5.4	30.5	15.4	198.1	0	61.0	—
	21~25日	23.2	20.0	3.2	17.6	13.4	131.3	24.5	64.0	38.3
	26~30日	24.1	20.8	3.3	42.6	13.4	317.9	5.5	66.9	8.2
6月	後半 計	24.0	20.1	3.9	90.7	42.2	214.9	30.0	191.9	15.6
6月	計	21.7	19.3	2.4	130.4	103.0	126.6	277.0	312.5	88.6

おいしいをつくりましょ。

富士伊豆農業協同組合

発行 令和7年7月4日
北駿産米改良推進協議会
JAふじ伊豆御殿場営農経済センター
TEL:0550-84-4820

【管内水稻生育状況】

最終目標茎数 324 本/m²

7月1日(火)現在

場所	標高(m)	播種日	田植日	茎数(本)	茎数/m ²	目標茎数(%)	分けつ数(本)	草丈(cm)	葉齢	葉色
神山	280	4/8	5/3	15.7	278	85.8	4.0	64.3	11.2	3.5
吉久保	370	4/5	5/1	27.4	419	129.3	9.1	72.6	12.7	4.1
大堰	400	4/5	5/6	30.4	476	146.9	9.2	72.0	11.9	4.8
用沢	460	4/8	5/5	21.9	346	106.8	7.3	64.6	11.8	4.5
中畑	550	3/27	5/3	26.5	417	128.7	9.5	63.5	12.2	4.5
上柴怒田	610	4/12	5/8	36.7	561	173.1	10.2	68.3	11.1	4.7
平均				26.4	416.2	128.5	8.1	67.6	11.8	4.3

生育診断・出穂期診断を行いましょ!!

今年は気温が高い為、分けつが多く草丈の伸びも旺盛で葉色も例年の同時期と比較しさめているほ場が見受けられます。栽培期間後半に肥料切れになると高温障害を受けやすく、品質低下や収量減少の要因となってしまいますので、生育診断を実施し肥料切れを起こさないよう、必要に応じて適期適量の穂肥を施用しましょ。

米の精肥料7号及び有機ペレット621を使用しているほ場

本来であれば穂肥は必要ありませんが、下記の場合は施用をお願いします。

茎数(株間18cm)	茎の太さ	葉色	穂肥
500本/m ² 以上(27本/株)	細い	4.3(SPAD35)以下	適期に散布
400本/m ² 以上(22本/株)	細い	4.3(SPAD35)以下	早期追肥

基肥+穂肥体系のほ場

下記を参考にして適期適量散布しましょ。

肥料名	散布適期	散布量(10a当たり)
マップ456(化成)	出穂18日前(幼穂10mm)	20kg(N=2.8kg)
有機アグレット727(有機)	出穂23日前(幼穂3mm)	34kg(N=2.4kg)

茎数/m²当たりの算出方法

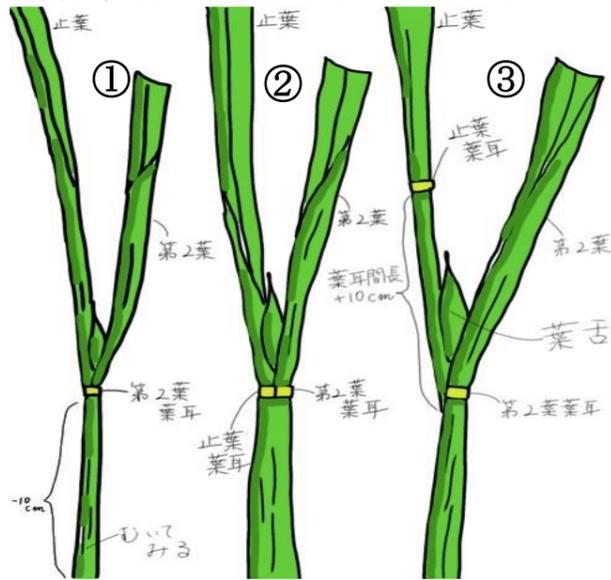
- ①11株間を測定(株間18cmの場合180cm=0.18m) ②1株当たり平均茎数(22本とする)
 $1 \div 0.18m(\text{株間}) \div 0.3m(\text{畝間}) \times 22 \text{本}(1 \text{株当たり平均茎数本}) = 407.4 \text{本/m}^2$

幼穂から見る出穂期

幼穂長	1mm	2mm	3mm	4mm	5mm	10mm	25mm	50mm
出穂前日数	28	25	23	21	20	18	15	13

- ・葉色が濃く、葉の伸びが大きい
 - ・第4・5節間が伸びている
- 上記の稲は倒伏の危険がありますので、穂肥を施用する場合はご注意下さい。

【葉耳間長から予測する出穂期】



※葉耳間長：止葉の葉耳と2枚目の葉耳の間の長さ

- ①止葉の葉耳が中に入っているのでむいてみる。
葉耳間長-10cm ⇒ 出穂 15 日前
- ②止葉と第2葉の葉耳が重なった時。
⇒ 出穂 10 日前
- ③止葉の葉耳が第2葉の葉耳の上に出ている。
⇒ 出穂 5 日前

適正な水管理により品質低下を防ぎましょう!!

中干し終了後は生育状況に適した水管理を行いましょう。出穂前後は稲が一番水分を必要とする時期です。この期間は土壤水分が不足しないよう気を付けましょう。その後、酸素供給も兼ねて適切な間断灌水を行い、稲体を健全に保ちましょう。

出穂 15~5 日前

この時期は1穂粒数が減少しやすい時期です。水を切らさないように注意しましょう。

- この時期に1穂粒数が減少する要因
- ・日照不足
 - ・栄養不足(茎数と栄養のバランス)
 - ・水分不足によるストレス

穂ばらみ期~出穂期(ほ場の5割程度出穂した状態)

稲体の水分蒸散量と酸素消費量が最大となります。湛水状態を保って下さい。

出穂期以降

酸素も必要になる時期です。間断灌水を実施しましょう。

再連絡

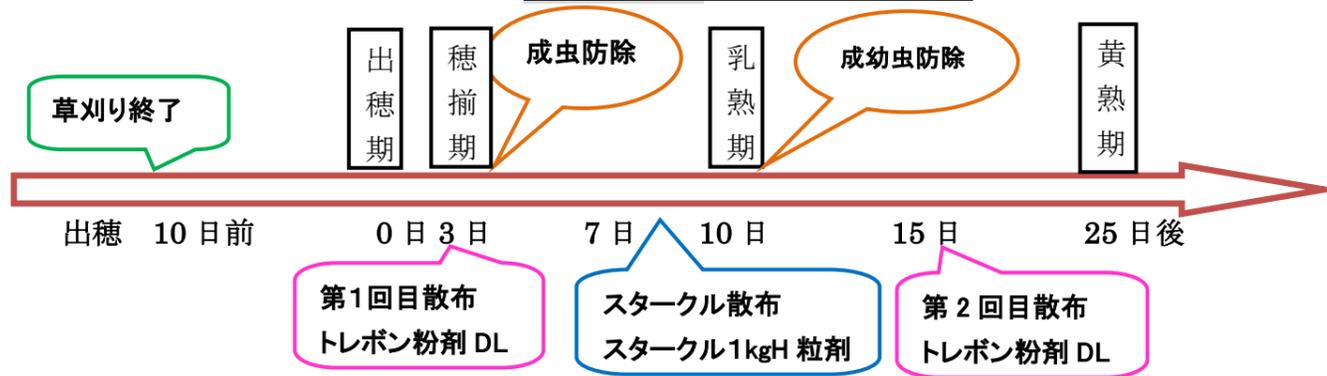
【カメムシ防除を行って下さい!!】

【静岡県病害虫防除所より】令和7年6月1日~20日の県内4か所の予察灯における斑点米カメムシ類の合計誘殺数の平均は282頭/か所(平年26.8頭、平年比10.5倍)でした。令和7年6月上中旬に行ったほ場周辺のすくい取り調査(捕虫網30回振り)による斑点米カメムシ類の捕獲数は、東部高冷地で3.4頭(平年0.9頭)とこちらも平年より多かったです。7月下旬までは気温は平年より高く、降水量は平年並みか少ない為、斑点米カメムシ類の発生がさらに助長されるおそれがあり、注意が必要。

【防除方法】

畦畔及び水田周辺の除草はカメムシ類の密度低下に有効です。出穂直前または出穂以降の除草はカメムシ類を水田内に移動させてしまう可能性がありますので、出穂の10日前までには畦畔の除草作業を終了させましょう。

また、カメムシが多発するほ場は、穂がほ場全体で80%~90%出た時期(穂揃期、成虫侵入期)。それから7~10日後(幼虫ふ化期)の2回薬剤散布を行うと効果が高いので必ず行うようにして下さい。



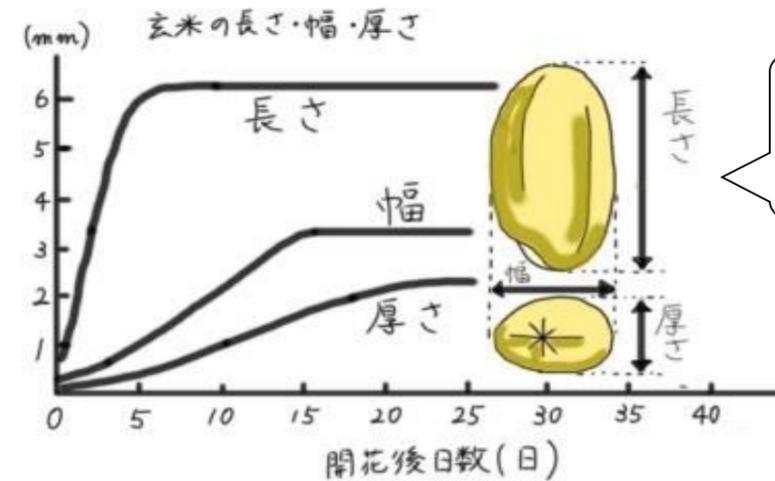
※トレボン粉剤は、ほ場全体・畦畔・農道等カメムシの生息している場所にくまなく散布。

※スタークル1kgH粒剤の散布のポイント

浅水(田面が露出しない程度)で散布する。深水や乾燥は避ける。田全体に均一に散布する。畦畔周りだけでなく田中央部までしっかり散布。出穂後7~10日後が散布適期。

薬 剤	使用時期	使用量 (10a)
トレボン粉剤 DL	穂揃期と乳熟期の2回	3 k g
スタークル 1 kgH粒剤	穂揃期以降 (出穂 7~10 日)	1 k g

どちらか散布



出穂後の水分の役割
玄米の大きさは出穂してから約4週間で決まります。この間は土壤水分が不足しないようにします。

高温時の水管理(乳白米対策)

①夜間の水のかけ流し(走り水)により、ほ場温度を下げる。

(昼間のかけ流しは不要)

②落水時期を遅くする。(少なくとも出穂後25日以降の落水とする)

※用水は限りあるものです。地域で素晴らしい米を作るために、川下の生産者にも水が行き渡るように協力しましょう。

湿田については収穫作業を見据えた管理を優先して下さい。

出穂期以降の水管理

出穂期から落水時期までは2~3日で水がなくなる程度に入水し、自然落水後、田面が乾く前に入水して下さい。